



五感をゆさぶる自然素材と「子どもあそび」の深まり

12月

(植物)



近頃の空土で落ち葉ひろい。

「いっほひろってきたよ!」

「ホラ! かわいいの!」



「ワアー 溜みたい!!」

風が吹きたいてはうらはと
落ちてくるイタウの葉っぱを
拾う。

「なんの形にしようかな」

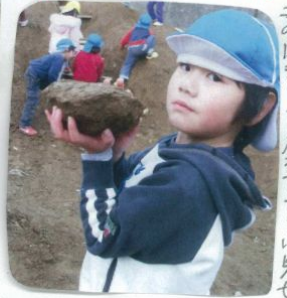
「色々な色、形があるね」と
声かける

(土・木)

夏の間に、水を通して遊んで
工場の溝に木を並べて
置き階段を作りあそんでいる



「ホラ、いいもの見つけた!」



「長さを覚えて板を
持ちより並べていた。」

(土)

「それよ好きなき場所、泥や土粘土を使って思い思いの形を
作り出して、土のしんでいた。」



「ほこまの穴をから〜」



「おみせやさんだよ!!」



「材料が足りず、このあとが作れ
ないで着てきた。」

「毎中継の家づくり、今回は
少し場所が変わり正方形
の囲いの形の家を作りました。」

(石)

「板と石とでの
重さ比べをして
いた。」

「乗る役と石に乗る
役で、話し合っているから...」

「おと前北のこ!」

「あの石かいいよ!」

と色と調整して
工夫していた

(石)



「少しおつ重さの調整
石のニーン」



「どなかで、運んたかと思うほど、大きい石も
その数、石の形、大きさ、重さなど、自分達
で何度も何度も試して話し合っていた。」



「しばらく
できあがり
を楽しんで
いた。」



「最後はこんな形に...」